

Title	昭和二十三年度春期 伊豆山神社見學報告
Sub Title	
Author	本郷, 広太郎(Hongo, Hirotarō)
Publisher	三田史学会
Publication year	1949
Jtitle	史学 Vol.24, No.1 (1949. 10) ,p.130- 131
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	彙報
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19491000-0130">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19491000-0130</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

終つて一時三十分解散。天気はあまり良好ならざるも見学に差支へなかつたのは幸ひで、有意義な見学会であつた。最後に寺の方々が終始快く御援助下された事に対して厚く御礼申し上げる次第である。

昭和二十三年  
年度春期  
伊豆山神社見學報告

五月二十三日、見學旅行の地を熱海の伊豆山神社に選び、七時五十分伊木先生と学生十数名は東京駅を出発した。戦後とも思へぬ湘南の風物を楽しみつゝ、十時五十分熱海駅に到着し、先輩ブリックマイヤー夫妻と合流して直ちに小雨の中を神社へと向つた。

温泉場から下宮と云はれる御旅所を経て、本社迄の六百数十段の石段参道を登り、雨も激しくなつて来たので直ちに社務所に入り、暫時休息の後古文書類其他の社宝を拜見する。先づ、一、国宝後祭良天皇御宸筆の般若心経。云ふ迄も無く、これは、天文九年厄病流行の際、一日も早くこれが止み、民草の安からむ事を願はれて、天皇自ら筆を取られたものであり、現在は当社のほかに、三河・甲斐・信濃・安房・越後・周防・肥後等に残つて居る。猶ほ、当社のもは、先年伊木先生が発見されたものである。其他、

- 一、佛説无所怖望経。
- 一、佛説阿彌陀経。
- 一、佛経註釈残欠。

(以上何れも紺紙金泥)

- 一、般若心経。(黄葉染紙)
- 一、法華経八卷。(豆経)
- 一、法華経普門品 (享保八年正月二十六日、浅井勝之丞室原田氏書)
- 一、応永八年十二月二十九日、左衛門尉憲清狀(御奉行所充、伊豆国熱海郷闕所分事)一通。
- 一、古文書写真三通。(原文書は伊勢に於て戦災にあつて失はれたとの事)

1. 曆応三年八月十九日、三河寺師多願文。

(走湯山権現立願事)

2. 建長六年十一月十七日、將軍家政所下文。

(美作国埴和西郷住人充)

3. 元弘三年九月十四日、足利尊氏御教書。

(伊豆国走湯山密嚴院寺務職事)

一、徳川將軍朱黒印状写、十六通。

雨は益々激しく、蒼黒な森林を通して海上に初島が煙つて見える。晴天ならば大島をも望み得よう。景色を楽しみつゝ晝食をとり、社務所の方々の語られるのを聞けば、祭神の伊豆大神は往古より温泉の守護神であり、昔殷賑を極めた時分には多くの支坊を有し、箱根・三島の両社と共に、関東の鎮守であつたとの事。又此の伊豆の湯は、太古から「伊豆の走り湯」と云はれた、と云ふ。

高野山高室院の末寺で、其の後伊豆山神社に合併され、明治の代、神佛分離に依つて独立した般若院も見学の予定であつた

が、天候不良のため中止し、午後は更に当社所藏の古文書類千社宝等を拜見させて頂くことにした。即ち、

一、伊豆山記（元祿戊寅秋九月朔、山岡文敬）一卷。

一、弘法大師画像。土佐光起筆。

一、法華曼陀羅。梵字は、頼朝の夫人政子が、頭髮を以て作つたと云はれてゐるもの。

一、伊豆山熱海境出入訴訟状

一册。

一、同絵図

一枚。

一、三寶院所藏伊豆山関係文書写

一册。

一、長承二年九月日、庁宣

一通。

最後に特に面白く思はれたものは、大震災の時の境内からの出土品である。即ち

一、経筒。「永久五年丁酉八月四日己未僧良勝、成祐橋氏」の銘がある。

一、鏡。「承安二年十一月十一日」の銘がある。

一、懸佛。鎌倉時代のもの。

何時しか歴史の裡に歩む心持で、午後二時過ぎ神社を辞し、役行者の像を見たる後、山の中腹をうねる旧道を通つて熱海の町へ出で、駅前にて解散した。当日は天候悪しく、為に、旧蹟を探り、神社以外の古美術品等を鑑賞する等のが出来なかつたのは遺憾であつた。が、数多くの古文書に接し、研究の大きな助けとなつた事を思へば、又有意義な見学であつた。終りに見学の便を與えて下さつた伊豆山神社宮司鹿島氏其の他の方々に対し厚く御礼申し上げる次第である。（本郷広太郎記）